

浜通り地域等で創る新たな産業

～福島イノベーション・コースト構想の取り組み～

県では、「福島イノベーション・コースト構想」を推進し、浜通り地域等における新たな産業基盤の構築を目指しています。構想の実現に向けた取り組みを紹介します。

「福島イノベーション・コースト構想」を知っていますか？

東日本大震災からまもなく10年が経過します。しかし、原子力災害の影響もあり、震災前の暮らしをいまだに取り戻せていない場所があります。

震災と原子力災害により失われた産業・雇用を回復するため、技術の開発や産業集積等による新たな産業基盤の構築を目指し、浜通り地域等15市町村で進められている国家プロジェクトが「福島イノベーション・コースト構想」（以下、「イノベ構想」）です。

ふくしまの未来のために

イノベ構想の取り組みが進み、浜通り地域等では、県外企業の進出や農業の再開が増えています。また、先端的な取り組みが全国に先駆けて実践されるなど、新技術と新産業の創出により、新たな産業基盤が少しずつ構築されようとしています。

将来的に、浜通り地域等での産業発展のみならず、この構想で育まれた新産業や人材などを他の地域に波及させ、福島県全域での経済復興を成し遂げることを目指しています。

福島イノベーション・コースト構想の実現に向けて

構想が具体化を進める6つの重点分野

廃炉

ロボット・ドローン

エネルギー・環境・リサイクル

農林水産業

医療関連

航空宇宙

6つの重点分野で、拠点の整備や研究開発、産業集積、人材育成、交流人口の拡大などを進め、イノベ構想の実現を図っています

構想実現に向けた取り組みの3つの柱

3つの柱を軸に、重点分野を具体的に進めていきます

あらゆる
チャレンジが可能な
地域

地域の企業が
主役

構想を支える
人材育成

福島イノベーション・コースト構想対象の浜通り地域等15市町村

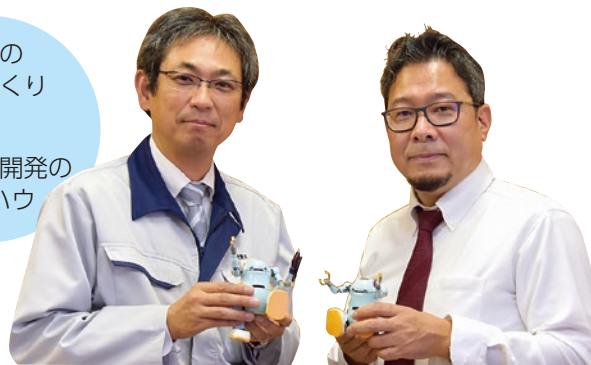




人材育成

▲福島西高校デザイン科学科の生徒がカラーデザインし、運営も協力してくれた子供向けプログラミング体験（ロボットテストフィールドでのイベント）

福島の
ものづくり
×
ロボット開発の
ノウハウ



(右) 株式会社リビングロボット（伊達市）代表取締役社長 ^{かわうち やすひろ} 川内 康裕さん
(左) アサヒ電子株式会社（伊達市）代表取締役社長 ^{かん の としお} 菅野 寿夫さん

インタビュー

人に寄り添うロボットの開発

県外の企業でロボット開発に携わった後に、誰もつくっていないロボットを開発したいと新たに会社を設立したリビングロボットの川内社長にインタビューしました。

最先端のロボット開発を福島県で

人とロボットが共存する社会

赤ちゃん用、教育用、高齢者の見守り用のように、人生の各段階に応じた人に寄り添うロボットをつくりたい。この開発のため、一緒に考えてくれる生産現場を探していたところ、旧知の仲のアサヒ電子の菅野社長が「一緒にやろうよ」と声を掛けてくれました。また、ロボット開発に対する福島県のサポートが非常に手厚かったため、昨年からは伊達市に本社を置きロボットを開発しています。

今年7月から福島ロボットテストフィールドに入居し、介護や道案内のロボットを開発中です。ここでは、さまざまなフィールドを活用して実証実験ができます。また、他の入居企業との交流は刺激的で勉強になります。浜通り地域で実証・開発を進め、社会で活躍するロボットのラインアップを充実させたいです。

将来は、人とロボットがパートナーとして一緒に幸せになる社会、リビングロボットの社名のように、リビングで人とロボットが共存する社会を創っていきたくです。

動くロボットに興味を持ち、みんな楽しんで学習しているの、つくって良かったです。



▲教育用ロボット「あるくメカトロウィーゴ」
©小林和史／講談社



▲「あるくメカトロウィーゴ」が動く様子はこちら

教育

世界に類を見ない拠点 福島ロボットテストフィールド

ドローンや空飛ぶクルマなど、陸・海・空のフィールドロボットの開発実証拠点として、県が南相馬市と浪江町に整備しました。

ドローン用の滑走路や災害現場を再現した施設など、ロボットの研究開発や操縦訓練ができる世界に類を見ない拠点です。

県では、本県の産業振興の拠点として、関連産業の育成、集積を図り、メイドイン福島のロボット技術や製品が生み出されるよう取り組んでいきます。



多くの人を訪れる地域を目指して

イノベ構想の実現には、避難により人口が減少した浜通り地域等を訪れる人(交流人口)を増やし、イノベ構想や地域に興味関心を持ってもらうことで、企業や研究機関等の呼び込みや地域経済の活性化につなげることが重要です。

東日本大震災・原子力災害伝承館で福島の復興の歩みを発信



今年9月に開館した東日本大震災・原子力災害伝承館は、福島が経験した複合災害の記録と教訓を伝え、福島の復興の歩みを発信する施設です。震災関連資料の展示やイノベ構想の最新の取り組みなどを紹介。開館以降、多くの方が伝承館を訪れています。

☎ 東日本大震災・原子力災害伝承館 ☎0240(23)4402
双葉郡双葉町大字中野字高田39
休館日 火曜日(火曜祝日の場合は翌平日)
年末年始(12/29～1/3)
開館時間 午前9時～午後5時(最終入館 午後4時30分)

視察ツアーで構想や地域を実感



新地町・福島天然ガス発電所を視察

企業等の訪問視察を呼び込むため、企業・団体、教育機関等の方を対象に、視察ツアーを実施。参加者にイノベ構想や地域を身近に感じてもらい、理解を深めてもらいます。

ツアーでは、はじめに、東日本大震災・原子力災害伝承館で福島の復興の現状を正しく知り、その後、「先進的な再生可能エネルギー」、「先端農業」などのテーマごとに拠点施設や取り組みを視察します。郷土料理の昼食や宿泊を取り込んだ1泊2日の日程で、地域経済の活性化も図っています。

☎ 公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構
☎024(581)6881

知事メッセージ Message

福島の新しい
未来づくりのために
福島県知事 内堀雅雄



福島イノベーション・コースト構想は、浜通り地域等における産業基盤の再構築を目指す国家プロジェクトです。県では、これまでに、福島ロボットテストフィールドや東日本大震災・原子力災害伝承館などの拠点整備を始め、研究開発や企業誘致等を積極的に進めてきました。

今後は、浜通り地域等を中心に産業集積を加速させるとともに、交流人口の拡大を図るなど、県全体にその効果を波及させることが重要です。

引き続き、国や関係機関と連携しながら、福島の新しい未来づくりを進めてまいります。

